



群馬県発の新たな機能性表示食品もPR 大田市場で本県産青果物の試食宣伝会が開催！

群馬県産「春きゅうり」等試食宣伝会

- 期日：2月4日(月)
- 場所：大田市場 東京青果・東京荏原青果
- 主催：JA邑楽館林、JA全農ぐんま、富士食品工業株式会社
- 内容：群馬県産きゅうり・ブリックスナインともやしのPR及び試食宣伝

都中央きゅうり入荷量は群馬県が2年連続1位！

この時期から出荷量が増えてくる群馬県産きゅうりをPRするために、群馬県のきゅうり主力産地の一つであるJA邑楽館林の関係者が来場して「春きゅうり試食宣伝会」を開催しました。

H30年都中央きゅうり入荷量は、群馬県が1位で占有率17%（H30/H25 入荷量伸長率116%）、2位は埼玉県で占有率16%（H30/H25 入荷量伸長率95%）です。H28年までは埼玉県が1位でしたが、H29年は占有率0.08%差で群馬県が1位に、H30年は同0.64%差とさらに差が広がっており、群馬県が2年連続できゅうり都中央入荷量No.1となりました。

当日は、株式会社ダイショーの「たたききゅうりのたれ（東京青果）」と「ミネストローネスープ（東京荏原青果）」を使用した試食品が提供されました。たたききゅうりも好評でしたが、「きゅうりのミネストローネ」が特に好評で「これは初めて食べた」、「思った以上に美味しい」と市場関係者の興味を引いていました。

「ブリックスナイン」や「もやし」の試食大好評！

当日は、群馬県が誇る高糖度トマト「ブリックスナイン」も試食宣伝されました。「ブリックスナイン」とは糖度9度以上という意味で、全国的にもフルーツトマトの先駆的なブランドトマトです。群馬県が開発した遮根透水シートを利用した根域制限栽培で、かん水量を調節して栽培するため果実は小ぶりで収量は従来のトマトと比べてかなり少ないですが、濃厚な甘さで果肉がしっかりした極上のフルーツトマトと評判です。「ブリックスナイン」を初めて食べる市場関係者も多く、「甘くて美味しい」、「果物みたい」と大好評で、用意した各100食分はあっという間に終了となりました。

また、東京青果では富士食品工業株式会社（本社工場：板倉市）のもやしの試食宣伝も行いました。当社の「小粒大豆もやし」は2月1日より大豆イソフラボンを含む機能性表示食品として販売が始まりました。パッケージデザインも一新され、試食品「もやしのみそ汁」とサンプル配布で市場関係者に群馬県の新たな機能性表示食品の特徴や食味の良さをPRしました。



東京青果の展示



試食宣伝



東京荏原青果の展示



試食品（左からブリックスナイン、たたききゅうり、きゅうりのミネストローネ）

